

TUNA SCOPEマグロバリューチェーングループ

■取組の背景

- 冷凍マグロの目利きは熟練職人の経験値と勘に依存している一方で、職人に人材不足が深刻化。
- 世界的なマグロ需要が高まっているが、地域毎に需要の高いマグロの種類や品質が異なっていた。

■取組の目的

- AIによる冷凍マグロ目利きフローの構築
- 現地ニーズに合わせたマグロの輸出
- 三崎マグロの高付加価値化

■協議会の構成員と役割

	段階	名称	役割
事業実施者	生産	住吉漁業株式会社	・冷凍マグロ製品の生産 ・冷凍マグロ魚体データの提供
	流通加工 輸出	株式会社三崎恵水産	・冷凍マグロの仕入れ・加工 ・輸出業務全般 ・海外における飲食店運営
	システム 開発	株式会社電通	・目利きAIシステムの開発 ・AIマグロのブランド構築
	販売	株式会社ネオ・エモーション	・海外におけるB to C販売支援 ・飲食店運営

■取組内容

生産	◆冷凍マグロの目利きをAI化するシステムの開発 ✓ データ収集➡キハダ、メバチ、クロマグロの3魚種各々について、AI品質判定の確立に向け、各関係者が連携しデータを収集するスキームを構築 ✓ サンプルデータの収集・解析➡マグロ類各魚種の尾部断面データサンプルを収集・解析し、AIに学習させることで、実用化に必要な制度を確保
	◆目利きAIを活用した検品フローの導入による輸出効率化 ✓ 取得した画像データと関連データの照会➡収集した尾部断面データを各個体の漁獲された漁場、重量等の情報とともに蓄積すると同時に、マグロ目利き職人による品質評価の結果を紐づけ、データベースを構築 ✓ AI目利きシステムの実用化➡データの収集・解析の積み重ねにより、AI目利きシステムの実用化を図る ✓ AIの導入による検品の効率化➡実際の買い付け、検品の現場にAI目利きシステムを導入し、買い付け時における検品作業の効率化を実現
加工・流通	
輸出	◆海外4都市圏におけるAIマグロのマーケティング ✓ 対象地域の絞り込み➡想定している輸出先国（シンガポール、米、カタール、中国）において、AIマグロを売り込む対象地域を抽出 ✓ 展開店舗の絞り込み➡データベース上に情報共有システムを構築し、事務作業のさらなる効率化を図るとともに、販売店舗の検討・選定 ✓ 現地飲食店・消費者を対象としたマーケティング調査➡末端消費者のニーズを収集するための調査を実施

AIを用いたマグロ目利き技術開発及び海外販路開拓

■取組の概要



■取組の現状と今後の展望

- TUNA SCOPEシステムは技術の確立に向けて試験を継続。
- 各種物流コストの高騰などの課題もあるが、既存販売ルートを活かし、着実に輸出金額を拡大している。

★本取組によって得られたバリュー★

AI・DXの活用（課題解決）

冷凍マグロの目利きをAI化するシステムの構築

作業効率化

目利きAIによる検品フローの導入による輸出の効率化

付加価値向上

海外4都市圏におけるAIマグロのマーケティング